

公表日 2026年 2月 1日

保護者等数(児童数) 28名回収数25件(割合90%)

事業所名 こぼんはうすくら 新川崎教室

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24	1			十分だと思います。	備品整理を行い、常に適切な活動スペースを確保できるようにしておく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21	1		3	十分だと思います。	現場の業務量や負担状況を踏まえ、必要に応じて配置の見直しを検討してまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	3			子供たちが利用しやすいように洗面台やトイレ等配慮させている。	子どもが分かりやすく使いやすい環境整備(洗面台・トイレ等)を今後も継続する
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23	2			十分だと思います。	清潔で安心して過ごせる生活空間を維持し、活動内容に応じた環境づくりを行う。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されていると思いますか。	25				療育センターで作成された分も共有し、活かして頂いている。	関係機関と連携し、個別支援計画に基づいた支援を継続する。
	6	すべき支援の発達支援(本人支援及び移行支援)、家族支援、地域支援で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されているか。	24	1			十分だと思います。	地域交流や外部活動について、無理なく参加できるように案内を継続する。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	23	2			支援内容を報告を見るに色々経験できて良い。	
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	25				支援内容を報告を見るに色々経験できて良い。	支援内容が固定化しないよう、活動プログラムの工夫を行う。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	22		1	2	まだ利用を始めたばかりでわからない。	
保護者への説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	25				十分だと思います。	今後とも分かりやすく説明を行っていく。
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	25				十分だと思います。	支援計画を示しながら、支援内容の分かりやすい説明を継続する。
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	21	3		1	まだ利用を始めたばかりでわからない。	保護者支援プログラムについて、周知方法を工夫する。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	22	2			十分だと思います。	日々の情報共有を通して、発達状況の共通理解を深める。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	24	1			十分だと思います。	定期的な面談や助言を継続し、相談しやすい環境を整える。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	23			2	まだ参加できてはいるが、案内があった。	保護者同士の交流の機会について、必要に応じて検討する。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	24			1	子がコップを上手に使えないことを共有してくださり、マグカップを利用するなど提案してもらい、対応をしてもらいなども助かっている。	相談・申入れに迅速かつ丁寧に対応できる体制を維持する。
	17	子どもや保護者の意見の表出や情報伝達のための配慮がなされているか	23			2	十分だと思います。	子ども・保護者の意見が伝えやすい配慮を行う。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	24			1	十分だと思います。	活動内容や予定等の情報発信を継続する。
非常時等の対応	19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	25				十分だと思います。	個人情報の適切な管理を徹底する。
	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	21	2		2	マニュアルについて説明を受けているが、訓練についてはわからない。	各種マニュアルの周知と訓練内容の共有に努める
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	22	2		1	マニュアルについて説明を受けているが、訓練についてはわからない。	非常災害を想定した訓練を継続して実施する。
満足度	21	子どもは通所を楽しみにしているか	24			1	とても楽しみにしており、こぼんで過ごす時間が充実できていると感じられる。	安心して楽しく通所できる支援を継続する。
	24	事業所の支援に満足しているか	24			1	とても満足している。	今後も支援の質向上に努め、満足度の維持・向上を目指す。

公表日

2026年 2月 1日

事業所名

こぼんはうすさくら 新川崎教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である職員の数に適切であるか。	19			利用定員に対し指導訓練室等のスペースは適切に確保されており、今後も活動内容や安全面に配慮しつつ、必要に応じて定員や設備の見直しを行い、適切な環境を維持できるようにします。
2	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	19			職員の本音は必ずしも聞き取り、児童の安全と適切な支援が行える体制を維持してはいますが、今後も利用状況に応じて柔軟に配置を見直し、適正な支援環境を確保いたします。
3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている。	19		・教室内、ホワイトボードに「今日に予定」「今日の先生」「今日いるお友達」など可視化されている。	2階にあるため、階段等安全面に気をつけながら行う必要があるため、駐車場から教室までの道は適切な人員確保が必要。
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている。	19			物が多く、直ぐくべとこにおいていないことがあるため、物の住所を決め、物の管理等共有し合う。 ・エアコン、床等のごまめな掃除
5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している。	19			将来的には全体目標を共有し、引き続き目標設定や振り返りに積極的に関わる体制を強化し、業務改善の効果と職員間の共有意識の向上を目指す。
6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている。	18	1	保護者会を実施する毎に、事前・事後アンケートを実施し、保護者の抱えている悩みや事業所への要望を調査している。	課題として保護者等からの評価や意見の活用が十分でない場合があることが挙げられるため、今後は保護者等向け評価表の活用方法をさらに工夫し、意向や要望の把握を徹底することを強化し、事業所運営の傾向と保護者満足度の向上を目指す。
7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	17			毎年更新時期に更新を行っている。
8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。	19			
9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	19		職員研修を行っている。	職員の勤務日数や曜日等の関係から、職員全員平等に研修を行うのが難しい。効率的に学びを深められるように、時間や頻度、内容等考慮していきたい。
10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している。	19			
11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	17			課題として子どもの適応行動の把握が十分でない場合があることが挙げられるため、今後は標準化されたアセスメントツールの活用と分析方法の工夫を強化し、個別支援計画の精度向上と支援効果の最大化を目指す。
12	児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドライン」の「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている。	19			
13	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	19			課題として児童発達支援計画に基づく支援が十分に実施されていない場合があることが挙げられるため、今後は計画に沿った支援の実施状況の確認と職員間の共有を強化し、支援の一貫性と効果の向上を目指す。
14	活動プログラムの立案をチームで行っている。	19			
15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	19			
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している。	19			
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	19			
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	17	2	・必ずとは言えないが、必要に応じてできている。	送迎にできるスタッフには共有が難しいことがあるため、口頭のみならず、事前共有の方法を検討していく。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	19			
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している。	19			課題として児童発達支援計画のモニタリングや見直しが十分でない場合があることが挙げられるため、今後は定期的なモニタリングの実施と結果に基づく計画見直しの徹底を強化し、支援の適切性と効果の向上を目指す。
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している。	16	3		課題としてサービス担当者会議において、その子どもの状況に十分精通した職員が参加できない場合があることが挙げられるため、今後は最も適切な職員の参加体制の徹底と情報共有の強化を図り、会議での支援方針の適切性と実効性の向上を目指す。
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている。	19			
23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている。				※当教室に重症心身障害の方は利用なしです。
24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている。				※当教室に重症心身障害の方は利用なしです。
25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	16	3	・園訪問などを定期的に行い、情報共有などを行っている。	情報共有の時期や方法を見直し、より計画的で丁寧な移行支援を行う必要がある。
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	19			
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている。	19			
28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある。	18	1		交流や合同活動の機会はあるが、目的や内容をより明確にし、継続的な取組として充実させていく必要がある。
29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している。	18	1		自立支援協議会や、他事業所との連携を連携会議を行いながら積極的に参加していきたい。
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	19			課題として子どもの発達状況や課題について保護者との共通理解が十分でない場合があることが挙げられるため、今後は日頃の情報共有の徹底と双方向のコミュニケーションの強化を図り、保護者との連携強化と支援の一貫性を向上を目指す。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている。	18	1	保護者会、親子イベント等を行っている。	・非活動職員は、送迎などしか保護者と関わる機会が少ないため、保護者会など積極的に参加してもらいながら保護者とかかる機会を提供していく。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	17	2		
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている。	19			
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	19			
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している。	19			

36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している。	19			
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している。	19			
38	個人情報の取扱いに十分注意している。	19			
39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	19			
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。	17	2		課題として地域住民との交流や事業所の開放的な活動が十分でない場合があることが挙げられるため、今後は事業所行事への地域住民招待や情報発信の工夫を強化し、地域との連携強化と理解促進を目指す。希望があれば、報告書向けに簡潔な1行文にもできます。
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している。	19			
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	19			
43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	19			
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	19			
45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	19			
46	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	19			
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している。	19			